巻頭言

『2020 年』駆け抜けた 1 年間を振り返って

なごや看護学会設立から3年を経過しています. 私は,2019年の第2回学術集会長を務めたのちに,2020年4月より理事長を拝命しております. 感染対策により学術集会を延期したことをおわびするとともに,皆様の学会運営への多大なるご協力に感謝いたします.2020年度の会員数は,正会員163名,賛助会員1施設とこれからの発展を願うばかりです.

2020年は、日本ではオリンピック開催され、スポーツの祭典での歓喜と世界の人とのつながりを体感する年でした。看護では、ナイチンゲール生誕200年を記念して、イギリスを起点に「看護の力」を世界中に発信する年でした。しかし、新型コロナウイルス感染症のパンデミックにより、世界で社会生活は激変しました。感染拡大が始まったころ、「グローバル化は、感染症の世界的な流行(パンデミック)を加速する」とインフルエンザが最初に流行した頃のニュースを思い出し、「その時がついに来たんだ」と思いました。

この1年を振り返ると、世界中から届くニュースや医療現場の映像に、一喜一憂する時期を経て、看護保健職は、先の見えない不安の中で、専門職としての自分自身と向き合いながら、やるべきことを<u>実直</u>に行ってきました。行政・臨床(病院・在宅)・教育の現場では、それぞれの立場で、前に進むための模索をしながら、相互に協力して感染拡大による壁を乗り越えてきました。

さて、会員の皆様は、ワクチン接種の開始や緊急事態宣言が一部地域で解除される中で、新年度の準備と次のステージでの状況に思いをはせながらの日々かと思います。一つの光は、「オンライン」という形が、人と人とのつながりを支えてくれていることを実感できたことです。もちろん臨場感やふれあいは大切ですが、情報機器の活用は必須であり、その可能性は未来へと拡がっているのは事実です。

2020年は、それぞれの思いを抱えて駆け抜けた1年といえます。皆様には、この1年間を充電期間と考えていただいて、この学会を通じて、引き続き『発信』をしていただけることを期待しております。今後とも、本学会へのご支援、ご協力の程よろしくお願いいたします。

2021年3月吉日

小 黒 智恵子 なごや看護学会長 (名古屋市立大学病院看護部)

